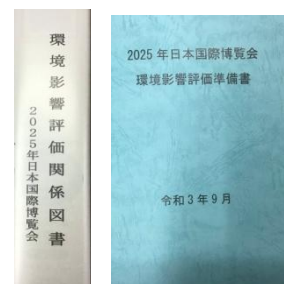


## 万博「環境影響評価準備書」縦覧

昨日、朝一番で阿倍野の大阪市環境局に行った。1日から「2025年日本国際博覧会環境影響評価準備書」縦覧が始まったからだ。2019年11月の「方法書」の際にも、ここで縦覧した。準備書はネットでも公開されるが、まずは本体を手にとり確認するためだ。

写真の「環境影響評価関係図書」は、準備書とその要約書、大阪市環境白書、例規集からなる。準備書本体は要約書と構成・目次が異なる。



- 第1章 事業計画
- 第2章 地域の概況
- 第3章 事業計画に反映した環境配慮の内容
- 第4章 環境影響評価の項目、調査、予測及び評価の手法
- 第5章 環境影響評価の結果
- 第6章 環境の保全及び創造のための措置
- 第7章 事後調査の方針
- 第8章 環境の保全及び創造の見地からの意見と事業者見解
- 第9章 特定届出の種類
- 第10章 委託先の氏名等

環境影響評価準備書は全体で789ページ、そのうち629ページが第5章の環境影響評価の結果である。この結果の分析、評価を専門家の協力により進めていく必要がある。その際、第4章の環境影響評価の項目や調査などが適切なものか、方法書に対する市民の意見がきちんと反映されているかが問題となる。要約書には入っていないが、第8章の環境の保全及び創造の見地からの意見と事業者見解が重要である。じっくり精査しなくてはならない。

2020年1月5日に「環境影響評価方法書に関する意見書」を提出した。事業計画が全体として不明確であり、生煮えの事業アセスになりかねない。会場計画は夢洲の地形や地盤などを勘案して策定されたのか。大阪・関西万博は「SDGsが達成される社会」を目標に掲げているが、事業計画にSDGsの記載はないのは問題だ、などと指摘した。SDGsについては、市民からの強い指摘もあり、準備書では「SDGs達成への貢献」などと記載しているが、会場計画などが問題となる。

準備書711ページに、環境影響の総合的に評価として、次のように記載している。「大気質、水質、土壌、騒音、振動、低周波音、廃棄物・残土、地球環境、動物、植物、生態系、景観、自然とのふれあい活動の場について、事業の実施が事業計画地周辺の環境に及ぼす影響について予測を行った結果、いずれの項目についても環境保全目標を満足するものと評価された。」これから、じっくり精査していきたい。

(2021年10月2日)